

サッカー戦術の変遷と未来

Transition and future of football strategy

1K06B214

指導教員 主査 奥野景介先生

宮成 昇

副査 堀野博幸先生

【緒言】

小学校から大学までサッカーを行った経験上、試合で勝利する為には個人能力の高さよりも、チーム戦術を駆使して戦うチーム力の高さが必要だと感じた。サッカーワールドカップにおいても同様のことが言え、世界的なスーパースターを抱えているチームが勝利するとは限らなく、チーム戦術を徹底して行っているチームが勝利していた。よってサッカーで勝利する為にチーム戦術は不可欠だと考えた。しかしサッカーが誕生した時からチーム戦術が行われてきたのではない。サッカーはどのようにして誕生し、どのような戦術が使われてきたのか、サッカーの起源を現代までさかのぼるとともに、その時代で主流となっていた戦術を中心に私は研究した。

【方法・目的】

74 大会から 06 大会までのワールドカップに関する文献・データ(データは 02 大会と 06 大会のみ)を読み取り、これまでに使われてきた戦術を参考にしながらこれから主流となる戦術を予想する

【結果】

06 大会までの戦術は、個人戦術から、チーム戦術と変わり、個人戦術とチーム戦術の融合化が行われていた。プレスをかける守備戦術が 1980 年代から流行し始めたことにより、限られた時間とスペースを打開するためのチーム戦術が使われるようになった。そしてこれまでの戦術を基に、未来の戦術は一瞬の隙を突いた攻撃戦術と、プレスをかけてボールを奪う守備戦術が使われるであろうと予想した。

【考察】

一瞬の隙を突く攻撃はダイレクトプレー、ポゼッションであり、ポゼッションからミドルシュートとサイド攻撃を行うことである。相手の守備組織によってダイレクトプレーとポゼッションを使い分ける。これらの中で特に主流になると考えた戦術はサイド攻撃である。現代サッカーはプレスをかけた守備を行っており、中盤は密集状態である。そこでプレスが甘くなるサイドのスペースを活用するのである。相手守備陣はサイドに配置する人数を減らしているため、数的不利になることが少なく、パス、ドリブル、シュートといった様々な判断を選択できる時間とスペースがある。これを有効活用することによって試合を優位に進めることができるのだ。実際のデータでも、06 大会の上位 16 チームとそれ以下では、1 試合で蹴ったクロスの数は、4 本ほど上位 16 チームの方が多かった。ワールドカップで勝利するためには、サイド攻撃を用いた攻撃戦術が不可欠であると考えます。

現代サッカーの守備はプレッシングと呼ばれる守備戦術を行っており、個人よりもチームとして狙いを持ちながら、一人の相手選手に対して複数の選手がボールを奪う守備戦術を取っている。DF から FW までの距離をコンパクトにして相手に自由な時間とスペースを与えないことを目的にしている。この守備戦術では FW にも守備が要求される。さらに奪ったボールをすぐに得点に結び付けられるように高い位置でプレスを駆け出すことが主流になると考える。

【結論】

10 大会は守備の戦術を含めて、攻撃的な戦術が主流になると考えられる。プレスを突破するサイド攻撃や、プレスがぶつかり合ってその中で奪ったボールを早く攻撃に結びつけることがゴールを奪う上で必要な戦術となる。局面ごとに数的同等または優位な状況を作って、相手よりも多くの人数をかけることによって相手よりも常に先手を打って試合を運ぶことができる。つまりボールに関わる人数を増やすことで良い攻撃と守備ができるのである。